

## [成果情報名]ねぎの栽培技術を応用したリーキの栽培法

[要約]リーキをチェーンポット育苗し、株間 10cm、窒素施肥量 25kg/10a (基肥:分施=15:10) で栽培することにより、葉鞘径 3 cm 以上の調製収量を多く得ることができる。これらをふまえて、既存のねぎの栽培技術を応用したリーキの栽培法を示す。

[キーワード]リーキ、栽培法、チェーンポット、ねぎ

[代表連絡先]電話 0138-77-8116

[研究所名]道総研道南農業試験場・研究部・生産環境グループ、地域技術グループ

---

## [背景・ねらい]

国内で消費されるリーキのほとんどは海外からの輸入であり、価格は国内より海外産の方が高いことから、輸入の代替と収益向上の見込める作物であると考えられる。また、リーキの栽培では管理作業はねぎとほぼ同様であり、栽培技術の応用が可能と想定されることから、新規作物として容易に導入できると考えられる。

そこで、葉鞘径 3 cm 以上を多く得ることを目標としたリーキの栽培法を、既存のねぎの栽培技術を応用して示す。

## [成果の内容・特徴]

1. リーキは、チェーンポットによる育苗・定植が可能であり、定植時の作業性向上のため剪葉が必要である。リーキの株間を 5、10 および 15cm で検討すると、5 cm は葉鞘径が細く、15cm は腐敗病による枯死が原因で調製株率および調製収量が低い(表 1)。したがって、株間 10cm が葉鞘径 3 cm 以上の調製収量を多く得るのに適している。定植後 20 日間のべたがけおよび 4 回の培土作業が、調製収量や葉鞘径におよぼす影響は少ない。品種を比較すると、「ポワロ」より「ポトフ」の方が葉鞘径 3 cm 以上の調製収量を得るのに適している。
2. 株間を 10cm とした場合、窒素施肥量を 25kg/10a (基肥:分施=15:10、N25 分施区) とすると、葉鞘径 3 cm 以上の調製収量(2012 および 2013 年に、それぞれ 2.0 および 3.4t/10a) を多く得ることができる(表 2)。
3. 以上より、株間および施肥の検討をふまえたリーキの栽培法を示す(表 3)。露地ねぎを栽培している生産者が本栽培法によりリーキを導入する場合、資材費はねぎとほぼ同等である。葉鞘径 3 cm 以上の調製収量を 2.0~3.4t/10a とし、その販売単価を 450 円/kg とした場合、10a あたりの販売収入は 900~1,530 千円/10a と試算され、10~12 月出荷の露地ねぎより高く見込まれる。
4. リーキ葉鞘部のフルクタン含有率は、無窒素区および施肥区別に比較するとねぎより高く、部位別にみると葉鞘上部より下部の方が高い(表 4)。グルコース、フルクトースおよびスクロース含有率はねぎとほぼ同等である。

## [普及のための参考情報]

1. 普及対象は、リーキを新たに導入しようとする生産者もしくは既存の生産者である。
2. ねぎの栽培技術を応用して、リーキを新たに導入する際に活用できる。

[具体的データ]

表1 株間、べたがけ、培土回数および品種がリーキの収量性におよぼす影響（2011および2012年の平均値）

処理	調製株率 <sup>2)</sup> (%)	葉鞘径 <sup>3)</sup> (cm)	調製重 <sup>4)</sup> (g/本)	調製収量		
				合計 (t/10a)	葉鞘径3cm以上 (t/10a)	(%)
株間15cm	53	4.0	487	1.9	1.8	94
株間10cm	65	3.8	406	3.0	2.7	91
株間5cm	83	2.7	253	4.6	2.3	47
べたがけ <sup>1)</sup>	51	4.1	470	1.8	1.8	98
培土4回 <sup>1)</sup>	63	3.6	385	2.1	1.9	88
品種「ポワロ」 <sup>1)</sup>	54	3.0	347	1.5	1.2	63

<sup>1)</sup>株間15cm。  
<sup>2)</sup>調製本数÷定植本数×100 調製本数は、定植本数から病害による欠株や奇形により調製できない株を除いたもの。  
<sup>3)</sup>茎盤から10cm高。  
<sup>4)</sup>根、枯死葉、腐敗した葉鞘外部を取り除き、葉を10cm程度残した。

表2 窒素施肥がリーキの収量性におよぼす影響（2012および2013年の平均値、株間10cm）

処理	調製株率 (%)	葉鞘径 (cm)	調製重 (g/本)	調製収量			乾物重 (kg/10a)	窒素 吸収量 (kg/10a)
				合計 (t/10a)	葉鞘径3cm以上 (t/10a)	(%)		
無窒素	86	2.8	194	1.9	1.2	60	447	5.7
N20分施	85	2.9	233	2.2	1.6	71	512	7.2
N25基肥	79	3.4	290	2.5	2.2	86	573	9.4
N25分施	78	3.7	337	2.9	2.7	93	654	11.0
N30分施	76	3.4	288	2.5	2.1	84	598	10.5

表3 リーキの栽培法

品種	「ポトフ」(コート種子)
育苗(株間)	3月上旬播種(育苗日数は60~75日程度)。1粒播用ポットシーダーを用いて、株間10cm用のチェーンポットに播種(1粒/ポット)。定植前に草丈15~20cm程度に剪葉。
畝間	90cm(栽植密度11,111本/10a)
施肥	施肥量は、N-P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> -K <sub>2</sub> O=25-20-30kg/10a。基肥:N15kg/10aを化成肥料で施用。分施:N10kg/10aを被覆磷硝安カリ40日タイプと化成肥料で5kg/10aずつ最終培土時(定植後約60日目)に施用。
定植	5月上~下旬定植。チェーンポット式簡易移植器(株間10cmチェーンポット対応型)を使用。ねぎ用の同移植器がある場合、別売のアタッチメントを装着することで同様の定植が可能。
培土作業	定植後約30日に土戻し、60日目を最終培土。培土の深さは15~20cm。
防除	ねぎに登録のある薬剤が使用できる。
除草	最終培土後は機械による畝間の中耕除草ができないため、ねぎに登録のある除草剤の活用や手取り除草を適宜行う。
収穫・調製	10月中旬~11月上旬収穫。枯れた外葉を取り除き、販売先の要望に応じて調製(例:葉を10cm程度残す、全長40cmとする、等)。
留意事項	腐敗病、葉枯病およびネギコガの発生が認められる。

表4 窒素施肥の違いがリーキ、ねぎのフルクタンおよび糖含有率におよぼす影響

処理	フルクタン(%F.W.)			グルコース(%F.W.)			フルクトース(%F.W.)			スクロース(%F.W.)		
	葉身	葉鞘上 <sup>2)</sup>	葉鞘下 <sup>3)</sup>	葉身	葉鞘上	葉鞘下	葉身	葉鞘上	葉鞘下	葉身	葉鞘上	葉鞘下
無窒素	0.3	1.4	4.4	1.5	1.6	1.2	1.5	1.4	1.0	0.6	0.7	0.8
N20分施	0.1	0.9	4.0	1.4	1.6	1.1	1.4	1.5	0.9	0.6	0.8	0.8
N25基肥	0.1	0.4	3.6	1.4	1.3	1.0	1.4	1.3	0.8	0.5	0.6	0.7
N25分施	0.0	0.3	2.8	1.7	1.5	1.2	1.7	1.4	1.1	0.5	0.7	0.8
N30分施	0.0	0.2	2.1	1.6	1.4	1.1	1.6	1.4	1.0	0.5	0.6	0.6
ねぎ無窒素 <sup>1)</sup>	0.0	0.5	3.2	1.3	1.8	1.6	1.4	1.7	1.3	0.3	0.5	0.9
ねぎN18 <sup>1)</sup>	0.0	0.0	1.3	1.6	1.7	1.7	1.6	1.7	1.6	0.3	0.4	0.7

<sup>1)</sup>場内で窒素0および18kg/10aで栽培、収穫したねぎ「白羽一本太」。<sup>2)</sup>、<sup>3)</sup>葉鞘部の上および下半分。  
 (細淵幸雄、植野玲一郎)

[その他]

予算区分：経常研究

研究期間：2011~2013年度

研究担当者：細淵幸雄、植野玲一郎、富沢ゆい子、菅原章人

発表論文等：平成25年度北海道農業試験会議(成績会議)における課題名および区分「ねぎの栽培技術を応用したリーキの栽培法」(指導参考)